
言語研究センター共同研究

「言語の個別性と普遍性 一文と発話の構造」活動中間報告

堤 正典 (代表代行)

本共同研究は、昨年度までの3年間で神奈川大学からの共同研究奨励助成金により「モダリティ・プロジェクト」として活動していた。2011年度は、このプロジェクトにおける2冊目の論集の編纂作業が活動の中心となっている。

本年3月に刊行された武内道子名誉教授と佐藤裕美准教授の編による神奈川大学言語学研究叢書1『発話と文のモダリティ 一対照研究の視点から』(ひつじ書房)は、所員にとっての長年の念願であった言語研究センターの叢書の第1巻であっ

たが、現在作成中の論集はその続巻となる。

この論集は、昨年7月24日に本共同研究グループにより開催されたワークショップ2010「モダリティ研究と言語教育」での各報告を中心に10篇の論考が掲載される予定である。前作は対照言語学的な側面からモダリティを取り上げたが、今回は言語教育の視点からモダリティを取り上げる。

なお、論集発行以外にも、現在、年度末に向けて、学外の研究者を招いての講演会あるいはシンポジウムの開催を検討しているところである。
